

設置年度 令和 2年度
計画の区分： 専門職大学の設置

認可

9月10日現在差替版

岡山医療専門職大学

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 本山学園
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

事務局長

モトヤマ ヤスヨ
本山 康代

電話番号

086-233-8020

（夜間）

e-mail

motoyama@motoyama-e.com

- （注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

健康科学部

＜理学療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	30
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 本山学園

(2) 大 学 名

岡山医療専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒700-0913
岡山県岡山市北区大供三丁目2-18

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ムロヤマ ヨシマサ) 室山 義正 (平成26年4月)		
学 長	(アサリ ショウジ) 浅利 正二 (令和2年4月)		
学 部 長	(クボヤマ イズミ) 窪山 泉 (令和2年4月)	(アサリ ショウジ) 浅利 正二 (令和3年4月)	健康上の理由により令和3年3月末で辞任したため、学長が兼務している。新学部長候補は教員審査中である(令和3年6月1日就任予定)。(3) 5月27日追記 教員審査の結果、6月1日に塩田雄太郎教授が就任。
学科長等	(ヒサノ カツヒト) 永野 克人 (令和2年4月)	(オノ トシロウ) 小野 俊朗 (令和2年4月)	就任予定の永野克人が就任を辞退したため。令和2年4月1日(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 理学療法学科 理学療法学士 (専門職)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	年 4	人 80	年次 人	人 320	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	80人 — (—) [—]	— (—) [—]	80人 — (—) [—]	— (—) [—]	0.63倍	—	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [0]	— (—) [—]	124 (—) [0]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [0]	— (—) [—]	119 (—) [0]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	39 (—) [0]	— (—) [—]	73 (—) [0]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	32 (—) [0]	— (—) [—]	69 (—) [0]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		0.4		0.86				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	32 [0] (－)	－ [ー] (－)	69 [0] (－)	－ [ー] (－)	
2 年次			－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	31 [0] (－)	－ [ー] (－)	
3 年次					－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	
4 年次							－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	－ [ー] (－)	
計			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)			－ [ー] (ー)	32 [0] (ー)	100 [0] (ー)		

・ 令和 3 年 5 月 1 日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成29年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
平成30年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	32 人	1 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	0 人	学生個人の心身に関する事情
令和3年度	100 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{32} = \boxed{3.12} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{100} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 理学療法学科>

(1)－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目		大学入門	1前	1			1	1	3	5		
		基盤ゼミⅠ	2前	1			2	1	3	5		
		基盤ゼミⅡ	3前	1			2	1	3	5		
		職業人の倫理と道徳論	1後	2			1					
		心理学	1前		2							1
		哲学概論	1前		2							1
		健康科学概論	1後	1								1
		コミュニケーション英語	1前	2								1
		日本の歴史と文化	1前	2								1
		国際政治経済論	2後	1								1
		基礎生物	1前	1								1
		基礎物理	1前	1								1
		情報収集と処理	1後	1			1					
		統計分析の基礎	2後	1				1				
		人間関係論	3前		2							1
		コミュニケーション論	3前	1								1
職業専門科目	専門基礎分野	テーマ設定と研究方法	3前	1			1					
		研究デザイン	3前	1			6	1	1	3		
		小計(18科目)	－	18	6	0	7	1	3	5	0	9
		メディカル英語	3後	2								1
		解剖学	1前	2			1					
		解剖学実習Ⅰ【※】	1後	1			1					
		解剖学実習Ⅱ【※】	2前	1			1					
		生理学	1前	2								1
		生理学実習【※】	1後	1								1
		運動学	1後	2			1					
		運動学実習【※】	2前	1			1		1			
		人間発達学	1前	2			1					
		臨床医学概論	1前	2			1					
		病理学	1後	2			1					
		精神医学	2後	2								1
職業専門科目	専門分野	整形外科学	2前	2			1					
		内科学	1後	2			1					
		神経内科学	2前	2								2
		小児科学	2前	2			1					
		リハビリテーション医学	1後	1			1					
		リハビリテーション概論	1前	1			1					
		地域包括マネジメント論	3後	1								3
		多職種連携論	1後	1						1		
		理学療法概論	1前	2			1					
		基礎理学療法学	2前	2				1				
		基礎理学療法実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		基礎理学療法実習Ⅱ【※】	3前	1					2	1		
		理学療法セミナーⅠ	4前		1				1			
		理学療法セミナーⅡ	4後		1					1		
		理学療法管理学概論	3前	2			1					
		理学療法評価学Ⅰ	1後	2					1			
職業専門科目	専門分野	理学療法評価学Ⅱ	2前	1					1			
		理学療法評価学実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法評価学実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		理学療法評価学実習Ⅲ【※】	3前	1					1	1		
		運動療法	1後	1			1					
		運動療法実習Ⅰ【※】	2前	1						2		
		運動療法実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		物理療法	2後	1			1					
		物理療法実習【※】	3前	1						2		
		理学療法治療学Ⅰ	2前	2			1					
		理学療法治療学Ⅱ	2前	1			1					

【令和3年度】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目		大学入門	1前	1			1	2	3	5		
		基盤ゼミⅠ	2前	1			1	2	3	5		
		基盤ゼミⅡ	3前	1			1	2	3	5		
		職業人の倫理と道徳論	1後	2			1					
		心理学	1前		2							1
		哲学概論	1前		2							1
		健康科学概論	1後	1								1
		コミュニケーション英語	1前	2								1
		日本の歴史と文化	1前	2								1
		国際政治経済論	2後	1								1
		基礎生物	1前	1								1
		基礎物理	1前	1								1
		情報収集と処理	1後	1			0					
		統計分析の基礎	2後	1				1				
		人間関係論	3前		2							1
		コミュニケーション論	3前	1								1
職業専門科目	専門基礎分野	テーマ設定と研究方法	3前	1			1					
		研究デザイン	3前	1			4	2	1	3		
		小計(18科目)	－	18	6	0	5	2	3	5	0	9
		メディカル英語	3後	2								1
		解剖学	1前	2			1					
		解剖学実習Ⅰ【※】	1後	1			1					
		解剖学実習Ⅱ【※】	2前	1			1					
		生理学	1前	2								1
		生理学実習【※】	1後	1								1
		運動学	1後	2			0					
		運動学実習【※】	2前	1			0		1			
		人間発達学	1前	2			0					
		臨床医学概論	1前	2			0					
		病理学	1後	2			1					
		精神医学	2後	2								1
職業専門科目	専門分野	整形外科学	2前	2			1					
		内科学	1後	2			0					
		神経内科学	2前	2								1
		小児科学	2前	2			0					
		リハビリテーション医学	1後	1			1					
		リハビリテーション概論	1前	1			1					
		地域包括マネジメント論	3後	1								3
		多職種連携論	1後	1						1		
		理学療法概論	1前	2				1				
		基礎理学療法学	2前	2				1				
		基礎理学療法実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		基礎理学療法実習Ⅱ【※】	3前	1					2	1		
		理学療法セミナーⅠ	4前		1				1			
		理学療法セミナーⅡ	4後		1					1		
		理学療法管理学概論	3前	2			0					
		理学療法評価学Ⅰ	1後	2					1			
職業専門科目	専門分野	理学療法評価学Ⅱ	2前	1					1			
		理学療法評価学実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法評価学実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		理学療法評価学実習Ⅲ【※】	3前	1					1	1		
		運動療法	1後	1			1					
		運動療法実習Ⅰ【※】	2前	1						2		
		運動療法実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		物理療法	2後	1				1				
		物理療法実習【※】	3前	1						2		
		理学療法治療学Ⅰ	2前	2				1				
		理学療法治療学Ⅱ	2前	1				1				

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職業 専門 科目	専門 分野	理学療法治療学Ⅲ	2後	1			1					
		理学療法治療学Ⅳ	2後	1				1				
		理学療法治療学実習Ⅰ【※】	2前	1			1		1	1		
		理学療法治療学実習Ⅱ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法治療学実習Ⅲ【※】	3前	1				1		1		
		老年期障害理学療法学	3前	1						1		
		理学療法演習Ⅰ	2後		2				1	1		
		理学療法演習Ⅱ	3後		2				1	1		
		日常生活活動学	2前	1						1		
		日常生活活動学実習【※】	2後	1				1	1			
		生涯スポーツ実習【※】	3前	1			1		3	2		
		スポーツ理学療法特論【※】	2後	1					1	1		
		義肢装具学	3後		1							1
		応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)【※】	4前	1					1	1		
		応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)【※】	4前		1							1
		応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)【※】	4前	1					1	1		
		生活環境学	2後	2						1		
		地域理学療法学	3前	1						1		
		予防理学療法学	3後		1					1		
		見学実習【臨】	1通	1				1	1	1		
		評価実習【臨】	3前	3					1	2		
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	8				1	1	1		
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	8					1	2		
小計(62科目)			－	85	9	0	8	1	3	5	0	10
展 開 科 目		ヒューマンサービス論	2後	2								1
		人間形成論	3後	2								1
		食生活マネジメント論	3前	2								1
		生体情報科学	3後	2								1
		NPO論	4前	2								1
		スポーツ科学	4前	2								1
		起業入門	4前	2								1
		マネジメント論	4前	2								1
		コーチング論	4前	2			1					
		岡山経営者論	4前	2			1					10
		小計(10科目)			－	20	0	0	2	0	0	0
総 合 科 目		総合研究Ⅰ	3後	1			6	1	3	3		
		総合研究Ⅱ	4前	1			6	1	3	3		
		総合演習Ⅰ	3後		1		2		1	1		
		総合演習Ⅱ	4前		1				2	1		
		卒業論文	4後	2			8	1	2	3		
		小計(5科目)	－	4	2	0	8	1	3	3	0	0
合計(95科目)			－	131	17	0	9	1	3	5	0	34
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習20単位以上 履修登録上限は、1年間に於いて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。												

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
職業専門科目	専門分野	理学療法治療学Ⅲ	2後	1			1					
		理学療法治療学Ⅳ	2後	1				1				
		理学療法治療学実習Ⅰ【※】	2前	1			0		1	1		
		理学療法治療学実習Ⅱ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法治療学実習Ⅲ【※】	3前	1				1		1		
		老年期障害理学療法学	3前	1						1		
		理学療法演習Ⅰ	2後		2				1	1		
		理学療法演習Ⅱ	3後		2				1	1		
		日常生活活動学	2前	1						1		
		日常生活活動学実習【※】	2後	1				1	1			
		生涯スポーツ実習【※】	3前	1			1		3	2		
		スポーツ理学療法特論【※】	2後	1					1	1		
		義肢装具学	3後		1							1
		応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)【※】	4前	1					1	1		
		応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)【※】	4前		1							1
		応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)【※】	4前	1					1	1		
		生活環境学	2後	2							1	
		地域理学療法学	3前	1							1	
		予防理学療法学	3後		1						1	
		見学実習【臨】	1通	1				1	1	1		
		評価実習【臨】	3前	3					1	2		
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	8				1	1	1		
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	8					1	2		
小計(62科目)			—	85	9	0	5	2	3	5	0	9
展開科目		ヒューマンサービス論	2後	2								1
		人間形成論	3後	2								1
		食生活マネジメント論	3前	2								1
		生体情報科学	3後	2								1
		NPO論	4前	2								1
		スポーツ科学	4前	2								1
		起業入門	4前	2								1
		マネジメント論	4前	2								1
		コーチング論	4前	2			1					
		岡山経営者論	4前	2			1					10
小計(10科目)			—	20	0	0	2	0	0	0	0	18
総合科目		総合研究Ⅰ	3後	1			4	2	3	3		
		総合研究Ⅱ	4前	1			4	2	3	3		
		総合演習Ⅰ	3後		1		0	1	1	1		
		総合演習Ⅱ	4前		1				2	1		
		卒業論文	4後	2			5	2	2	3		
		小計(5科目)	—	4	2	0	5	2	3	3	0	0
合計(95科目)			—	131	17	0	6	2	3	5	0	33
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習20単位以上 履修登録上限は、1年間に於いて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。												

【令和２年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 科 目		大学入門	1前	1			1	2	3	5		
		基盤ゼミⅠ	2前	1			2	2	3	5		
		基盤ゼミⅡ	3前	1			2	2	3	5		
		職業人の倫理と道徳論	1後	2			1					
		心理学	1前		2							1
		哲学概論	1前		2							1
		健康科学概論	1後	1								1
		コミュニケーション英語	1前	2								1
		日本の歴史と文化	1前	2								1
		国際政治経済論	2後	1								1
		基礎生物	1前	1								1
		基礎物理	1前	1								1
		情報収集と処理	1後	1			1					
		統計分析の基礎	2後	1				1				
		人間関係論	3前		2							1
		コミュニケーション論	3前	1								1
		テーマ設定と研究方法	3前	1			1					
		研究デザイン	3前	1			5	2	1	3		
		小計(18科目)	－	18	6	0	6	2	3	5	0	9
職 業 専 門 科 目	専 門 基 礎 分 野	メディカル英語	3後	2								1
		解剖学	1前	2			1					
		解剖学実習Ⅰ【※】	1後	1			1					
		解剖学実習Ⅱ【※】	2前	1			1					
		生理学	1前	2								1
		生理学実習【※】	1後	1								1
		運動学	1後	2			1					
		運動学実習【※】	2前	1			1			1		
		人間発達学	1前	2			1					
		臨床医学概論	1前	2			1					
		病理学	1後	2			1					
		精神医学	2後	2								1
		整形外科学	2前	2			1					
		内科学	1後	2			1					
		神経内科学	2前	2								2
		小児科学	2前	2			1					
		リハビリテーション医学	1後	1			1					
		リハビリテーション概論	1後	1			0					
		地域包括マネジメント論	3後	1								3
		多職種連携論	1後	1						1		
	専 門 分 野	理学療法概論	1前	2			0	1				
		基礎理学療法学	2前	2				1				
		基礎理学療法実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		基礎理学療法実習Ⅱ【※】	3前	1					2	1		
		理学療法セミナーⅠ	4前		1				1			
		理学療法セミナーⅡ	4後		1					1		
		理学療法管理学概論	3前	2			1					
		理学療法評価学Ⅰ	1後	2					1			
		理学療法評価学Ⅱ	2前	1					1			
		理学療法評価学実習Ⅰ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法評価学実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		理学療法評価学実習Ⅲ【※】	3前	1					1	1		
		運動療法	1後	1			0					
		運動療法実習Ⅰ【※】	2前	1						2		
		運動療法実習Ⅱ【※】	2後	1						2		
		物理療法	2後	1			0	1				
		物理療法実習【※】	3前	1						2		
		理学療法治療学Ⅰ	2前	2			0	1				
		理学療法治療学Ⅱ	2前	1			0	1				
		理学療法治療学Ⅲ	2後	1			0					
		理学療法治療学Ⅳ	2後	1				1				
		理学療法治療学実習Ⅰ【※】	2前	1			1		1	1		
		理学療法治療学実習Ⅱ【※】	2後	1					1	1		
		理学療法治療学実習Ⅲ【※】	3前	1				1		1		

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職 業 専 門 科 目	専 門 分 野	老年期障害理学療法学	3前	1						1		
		理学療法演習Ⅰ	2後		2				1	1		
		理学療法演習Ⅱ	3後		2				1	1		
		日常生活活動学	2前	1						1		
		日常生活活動学実習【※】	2後	1				1	1			
		生涯スポーツ実習【※】	3前	1			1		3	2		
		スポーツ理学療法特論【※】	2後	1					1	1		
		義肢装具学	3後		1							1
		応用治療技術実習Ⅰ （徒手療法）【※】	4前	1					1	1		
		応用治療技術実習Ⅱ（リ ハビリ工学）【※】	4前		1							1
		応用治療技術実習Ⅲ （セルフコンディショニン グ）【※】	4前	1					1	1		
		生活環境学	2後	2						1		
		地域理学療法学	3前	1						1		
		予防理学療法学	3後		1					1		
		見学実習【臨】	1通	1				1	1	1		
		評価実習【臨】	3前	3					1	2		
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	8				0	1	1	1	
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	8						1	2	
小計(62科目)			—	85	9	0	6	2	3	5	0	10
展 開 科 目		ヒューマンサービス論	2後	2								1
		人間形成論	3後	2								1
		食生活マネジメント論	3前	2								1
		生体情報科学	3後	2								1
		NPO論	4前	2								1
		スポーツ科学	4前	2								1
		起業入門	4前	2								1
		マネジメント論	4前	2								1
		コーチング論	4前	2			1					
		岡山経営者論	4前	2			1					10
		小計(10科目)			—	20	0	0	2	0	0	0
総 合 科 目		総合研究Ⅰ	3後	1			4	2	3	3		
		総合研究Ⅱ	4前	1			4	2	3	3		
		総合演習Ⅰ	3後		1		1	1	1	1		
		総合演習Ⅱ	4前		1				2	1		
		卒業論文	4後	2			6	2	2	3		
小計(5科目)			—	4	2	0	6	2	3	3	0	0
合計(95科目)			—	131	17	0	7	2	3	5	0	34
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習20単位以上 履修登録上限は、1年間に於いて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。												

- (注)
・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・中川法一教授が一身上の理由で就任を辞退したことの理由により、「リハビリテーション概論」の配当年次を「1年前期」から「1年後期」に変更、専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更、「運動療法」「理学療法治療学Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・中川法一教授、永野克人教授が一身上の理由で就任を辞退したことの理由により、「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」の「教授6」から「教授4」、「准教授1」から「准教授2」に変更、「卒業論文」の「教授8」から「教授6」、「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・永野克人教授が一身上の理由で就任を辞退したため下瀬良太准教授に担当を変更したことの理由により、「研究デザイン」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」、「准教授1」から「准教授2」に変更、「理学療法概論」「物理療法」「理学療法治療学Ⅰ」「理学療法治療学Ⅱ」「総合実習Ⅰ」を「教授1」から「教授0」、「准教授0」から「准教授1」に変更、「総合演習Ⅰ」を「教授2」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・「大学入門」「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」の担当として下瀬良太准教授を追加したため、「准教授1」から「准教授2」に変更。

【令和3年度】

- ・明日徹教授が令和2年9月に就任したため、「リハビリテーション概論」の配当年次を一時的に「1年前期」から「1年後期」に変更していたが、令和3年度より「1年前期」に変更、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更、「運動療法」「理学療法治療学Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・窪山泉教授が健康上の理由で辞任し、「人間発達学」「臨床医学概論」「内科学」「小児科学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・山田英司教授が健康上の理由で辞任し、「情報収集と処理」「研究デザイン」「運動学」「理学療法管理学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更、「基盤ゼミⅠ」「基盤ゼミⅡ」を「教授2」から「教授1」に変更。「理学療法治療学実習Ⅰ」「運動学実習」は担当者を他に2人配置しており、本年度は定員充足率が0.39倍のため担当者2人で担当可能なため「教授1」から「教授0」に変更。「総合演習Ⅰ」は選択科目であることと、担当者を他に3人配置しているため「教授1」から「教授0」に変更。
- ・「総合研究Ⅰ」「総合研究Ⅱ」は中川法一教授から明日徹教授に担当を変更、山田英司教授が健康上の理由で辞任したことの理由により、専任教員等の配置を「教授4」として
- いる。
- ・「卒業論文」は中川法一教授から明日徹教授に担当を変更、健康上の理由で窪山泉教授と山田英司教授が辞任したことの理由により、専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。
- ・千田益生講師が業務上の都合により「整形外科学」を辞退したため、兼任・兼任を遠藤裕介講師に変更した。
- ・太田康之講師及び菱川望講師が業務上の都合により「神経内科学」を辞退したため、兼任・兼任を山下徹講師に変更し、「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・山田了士講師が業務上の都合により「精神医学」を辞退したため、兼任・兼任を三宅俊明講師に変更。
- ・三宅浩之講師が業務上の都合により「国際政治経済論」を辞退したため、兼任・兼任を足守浩講師に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
83 科目	12 科目	0 科目	95 科目	83 科目 [0]	12 科目 [0]	0 科目 [0]	95 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{95} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考				
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	岡山医療技術専門学校、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校、西日本調理製菓専門学校（必要面積：数値基準はなし）と共用					
	校 舎 敷 地	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²						
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²						
	小 計	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²						
	そ の 他	0 m ²	187. 39 m ²	0 m ²	187. 39 m ²						
	合 計	1, 228. 85 m ²	4758. 15 m ²	0 m ²	5, 987 m ²						
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	岡山医療技術専門学校（必要面積200㎡）、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校（必要面積499. 2㎡）、西日本調理製菓専門学校（必要面積904㎡）と共用					
		6091. 19㎡ (3282. 27㎡)	5689. 91㎡ (8498. 84㎡)	4158. 45㎡ (4158. 45㎡)	15939. 55㎡ (15939. 55㎡)						
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
		13室	11室	12室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数						
		健康科学部研究室			28 室						
		教育研究室			1 室						
		健康科学部実験共同研究室			1 室						
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書(洋書141冊)は、新型コロナウイルスの影響で洋書が入手できず開設前年度に整備する予定が遅延している(2)。令和2年8月31日に納品されたため、設置計画通りの冊数となった(3)。			
	健康科学部	9, 723 [338] (9, 723 [338]) (9, 582 [197]) (9, 723 [338])	1413 [7] (1413 [7])	1408 [7] (1408 [7])					16 (16)	2, 815 (2, 815)	57 (57)
	計	9, 723 [338] (9, 723 [338]) (9, 582 [197]) (9, 723 [338])	1413 [7] (1413 [7])	1408 [7] (1408 [7])					16 (16)	2, 815 (2, 815)	57 (57)
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		484. 56㎡		100		48, 880					
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		1055. 21㎡		—		—					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナルの整備費(運用コスト)を含む。図書購入費は、新型コロナウイルスの影響で洋書が入手できず開設前年度に整備する予定が遅延している(2)。		
		教員 1 人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5, 560千円 3, 015	9, 000千円 5, 587	3, 396千円			
		共 同 研 究 費 等	450千円	450千円	設備購入費	千円	千円	千円			
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次				
		1, 760千円	1, 460千円	1, 460千円	1, 460千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入 等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	岡 山 医 療 専 門 職 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所 在 地	
健康科学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
理学療法学科	4	120	0	480		0.54	0.72	-	令和2	-	
作業療法学科	4	80	0	320	理学療法学士（専門職）	0.63	0.86	-	令和2	岡山県岡山市北区大供三丁目2-18	
大学全体	4	40	0	160	作業療法学士（専門職）	0.36	0.45	-	令和2	同上	
大学全体	-	120	0	480	-	-	-	-	-	-	
大 学 の 名 称							学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数		備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所 在 地	
該当なし	年	人	年次人	人		倍	倍				

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
- （専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<健康科学部 理学療法学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	浅利 正二 (76) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 岡山経営者論
専	教授	窪山 泉 (67) ＜令和2年4月＞ 医師、博士（医）
		人間発達学 臨床医学概論 内科学 小児科学 卒業論文
専	教授	永野 克人 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（薬学）、修士（保健学）
		研究デザイン 理学療法概論 物理療法 理学療法治療学Ⅰ 理学療法治療学Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
専	教授	佐々木 順造 (73) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		テーマ設定と研究方法 研究デザイン 解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	浅利 正二 (76) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 岡山経営者論
専	教授	窪山 泉 (67) ＜令和2年4月＞ 医師、博士（医）
		人間発達学 臨床医学概論 内科学 小児科学 卒業論文
専	教授	
専	教授	佐々木 順造 (73) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		テーマ設定と研究方法 研究デザイン 解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	浅利 正二 (77) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 岡山経営者論
専	教授	
専	教授	佐々木 順造 (74) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		テーマ設定と研究方法 研究デザイン 解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小野 俊朗 (67) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 病理学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実専	教授	中川 法一 (59) ＜令和2年4月＞ 保健学博士
		リハビリテーション概論 運動療法 理学療法治療学Ⅲ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小野 俊朗 (67) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 病理学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
専	准教授	下瀬 良太 (38) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（医科学）、学士（理学療法学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 理学療法概論 物理療法 理学療法治療学Ⅰ 理学療法治療学Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小野 俊朗 (68) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 病理学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
専	准教授	下瀬 良太 (39) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（医科学）、学士（理学療法学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 理学療法概論 物理療法 理学療法治療学Ⅰ 理学療法治療学Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実専	教授	明日 徹 (57) ＜令和2年9月＞
		リハビリテーション概論 運動療法 理学療法治療学Ⅲ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	山下 裕之 (51) ＜令和3年4月＞ 博士（健康科学）、修士（健康体育学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	増川 武利 (44) ＜令和2年4月＞ 修士（理学療法学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法評価学Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅰ 理学療法演習Ⅱ 生涯スポーツ実習 見学実習 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	横山 暁大 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ
兼任	講師	横山 暁大 (46) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 理学療法評価学Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	山下 裕之 (51) ＜令和3年4月＞ 博士（健康科学）、修士（健康体育学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	増川 武利 (44) ＜令和2年4月＞ 修士（理学療法学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法評価学Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅰ 理学療法演習Ⅱ 生涯スポーツ実習 見学実習 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	横山 暁大 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ
兼任	講師	横山 暁大 (46) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 理学療法評価学Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	山下 裕之 (51) ＜令和3年4月＞ 博士（健康科学）、修士（健康体育学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	増川 武利 (45) ＜令和2年4月＞ 修士（理学療法学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法評価学Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅰ 理学療法演習Ⅱ 生涯スポーツ実習 見学実習 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	横山 暁大 (47) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ
兼任	講師	横山 暁大 (47) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 理学療法評価学Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	那須 宣宏 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法セミナーⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合実習Ⅰ
兼任	講師	那須 宣宏 (46) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 評価実習 総合実習Ⅰ
実専	助教	鈴木 啓子 (45) ＜令和4年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅲ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅱ
兼任	講師	鈴木 啓子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		基盤ゼミⅠ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ スポーツ理学療法特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	那須 宣宏 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法セミナーⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合実習Ⅰ
兼任	講師	那須 宣宏 (46) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 評価実習 総合実習Ⅰ
実専	助教	鈴木 啓子 (45) ＜令和4年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅲ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅱ
兼任	講師	鈴木 啓子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		基盤ゼミⅠ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ スポーツ理学療法特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	那須 宣宏 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法セミナーⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法） 評価実習 総合実習Ⅰ
兼任	講師	那須 宣宏 (47) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅲ 生涯スポーツ実習 評価実習 総合実習Ⅰ
実専	助教	鈴木 啓子 (45) ＜令和4年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法治療学実習Ⅲ 理学療法演習Ⅰ 生涯スポーツ実習 スポーツ理学療法特論 応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング） 総合実習Ⅱ
兼任	講師	鈴木 啓子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（心身健康科学）、教育学士
		基盤ゼミⅠ 運動学実習 理学療法評価学実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 運動療法実習Ⅱ 理学療法演習Ⅰ スポーツ理学療法特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	田村 正樹 (37) ＜令和2年4月＞ 修士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 物理療法実習 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 理学療法治療学実習Ⅰ 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実(研)	教授	山田 英司 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 情報収集と処理 研究デザイン 運動学 運動学実習 理学療法管理学概論 理学療法治療学実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実(研)	准教授	片岡 弘明 (39) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（保健福祉学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 統計分析の基礎 研究デザイン 基礎理学療法学 理学療法治療学Ⅳ 理学療法治療学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	田村 正樹 (37) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学） 、修士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 物理療法実習 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 理学療法治療学実習Ⅰ 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実(研)	教授	山田 英司 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 情報収集と処理 研究デザイン 運動学 運動学実習 理学療法管理学概論 理学療法治療学実習Ⅰ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実(研)	准教授	片岡 弘明 (39) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（保健福祉学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 統計分析の基礎 研究デザイン 基礎理学療法学 理学療法治療学Ⅳ 理学療法治療学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	田村 正樹 (38) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学） 、修士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 物理療法実習 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 運動療法実習Ⅰ 理学療法治療学実習Ⅰ 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実(研)	准教授	片岡 弘明 (40) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（保健福祉学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 統計分析の基礎 研究デザイン 基礎理学療法学 理学療法治療学Ⅳ 理学療法治療学実習Ⅲ 日常生活活動学実習 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実 (研)	助教	小島 一範 (44) ＜令和2年4月＞ 博士（リハビリテーション学）、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 老年期障害理学療法学 日常生活活動学 生活環境学 地域理学療法学 予防理学療法学 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実 (研)	助教	田中 雅侑 (32) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）、修士（保健学）、学士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 運動療法実習Ⅱ 物理療法実習 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅱ 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン 整形外科 リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
兼任	講師	千田 益生 (62) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科 リハビリテーション医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実 (研)	助教	小島 一範 (44) ＜令和2年4月＞ 博士（リハビリテーション学）、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 老年期障害理学療法学 日常生活活動学 生活環境学 地域理学療法学 予防理学療法学 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実 (研)	助教	田中 雅侑 (32) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）、修士（保健学）、学士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 運動療法実習Ⅱ 物理療法実習 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅱ 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン 整形外科 リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
兼任	講師	千田 益生 (62) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科 リハビリテーション医学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実 (研)	助教	小島 一範 (45) ＜令和2年4月＞ 博士（リハビリテーション学）、理学修士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 老年期障害理学療法学 日常生活活動学 生活環境学 地域理学療法学 予防理学療法学 総合実習Ⅱ 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実 (研)	助教	田中 雅侑 (33) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）、修士（保健学）、学士（保健学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 運動療法実習Ⅱ 物理療法実習 理学療法治療学実習Ⅱ 理学療法演習Ⅱ 見学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン 整形外科 リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
兼任	講師	千田 益生 (63) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	遠藤 裕介 (47) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	山下 立次 (67) ＜令和4年4月＞ 体育学士
		研究デザイン 生涯スポーツ実習 コーチング論 卒業論文
兼任	教授	勅使川原 匡 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理学）
		基礎生物 生理学 生理学実習
兼任	教授	安田 従生 (49) ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy Master of Science 教育学修士、体育学士
		健康科学概論 メディカル英語 スポーツ科学
兼任	教授	吉田 直樹 (58) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）、修士（工学）
		応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ 工学）
兼任	講師	秋山 努 (68) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (65) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化
兼任	講師	太田 康之 (46) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	山下 立次 (67) ＜令和4年4月＞ 体育学士
		研究デザイン 生涯スポーツ実習 コーチング論 卒業論文
兼任	教授	勅使川原 匡 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理学）
		基礎生物 生理学 生理学実習
兼任	教授	安田 従生 (49) ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy Master of Science 教育学修士、体育学士
		健康科学概論 メディカル英語 スポーツ科学
兼任	教授	吉田 直樹 (58) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）、修士（工学）
		応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ 工学）
兼任	講師	秋山 努 (68) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (65) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化
兼任	講師	太田 康之 (46) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	山下 立次 (67) ＜令和4年4月＞ 体育学士
		研究デザイン 生涯スポーツ実習 コーチング論 卒業論文
兼任	教授	勅使川原 匡 (50) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理 学）
		基礎生物 生理学 生理学実習
兼任	教授	安田 従生 (50) ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy Master of Science 教育学修士、体育学士
		健康科学概論 メディカル英語 スポーツ科学
兼任	教授	吉田 直樹 (59) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）、修士（工 学）
		応用治療技術実習Ⅱ（リハ ビリ工学）
兼任	講師	秋山 努 (69) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (66) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	菱川 望 (53) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学
兼任	講師	山田 了士 (64) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		精神医学
兼任	講師	三宅 浩之 (53) ＜令和3年4月＞ 法学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	平林 眞弓 (72) ＜令和4年4月＞ 修士(環境科学)、管理栄養士
		食生活マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	菱川 望 (53) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学
兼任	講師	山田 了士 (64) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		精神医学
兼任	講師	三宅 浩之 (53) ＜令和3年4月＞ 法学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	平林 眞弓 (72) ＜令和4年4月＞ 修士(環境科学)、管理栄養士
		食生活マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山下 徹 (44) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学
兼任	講師	三宅 俊明 (42) ＜令和3年4月＞ 医師、学士(医学)
		精神医学
兼任	講師	足守 浩 (69) ＜令和3年4月＞ 政治学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	平林 眞弓 (72) ＜令和4年4月＞ 修士(環境科学)、管理栄養士
		食生活マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論※
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論※
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論※
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論※
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論※
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士（学 校教育学）
		ヒューマンサービス論
兼任	講師	高橋 文博 (71) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論※
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士 （学校教育学）
		ヒューマンサービス論
兼任	講師	高橋 文博 (71) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論※
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論※
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士 （学校教育学）
		ヒューマンサービス論
兼任	講師	高橋 文博 (72) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 孝 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	岡 久雄 (68) ＜令和4年9月＞ 工学博士
		生体情報科学
兼任	講師	塩見 均 (67) ＜令和5年4月＞ 外国学学士
		起業入門
兼任	講師	長田 貴仁 (67) ＜令和5年4月＞ 博士（経営学）
		NPO論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 孝 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	岡 久雄 (68) ＜令和4年9月＞ 工学博士
		生体情報科学
兼任	講師	塩見 均 (67) ＜令和5年4月＞ 外国学学士
		起業入門
兼任	講師	長田 貴仁 (67) ＜令和5年4月＞ 博士（経営学）
		NPO論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀内 孝 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	岡 久雄 (68) ＜令和4年9月＞ 工学博士
		生体情報科学
兼任	講師	塩見 均 (67) ＜令和5年4月＞ 外国学学士
		起業入門
兼任	講師	長田 貴仁 (67) ＜令和5年4月＞ 博士（経営学）
		NPO論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和２年度】

・永野克人が教授就任を一身上の都合により辞退したことにより、下瀬良太准教授に変更。令和2年1月教員審査済み。 ・中川法一が教授就任を一身上の都合により辞退したことにより、明日徹教授に変更。令和2年6－7月教員審査済み

【令和３年度】

・窪山泉教授が健康上の理由により辞任したことにより、後任を令和3年4月－5月教員審査中。5月27日追記 教員審査の結果、塩田雄太郎教授が6月1日就任。 ・山田英司教授が健康上の都合により辞任したことにより、後任として明日徹教授と下瀬良太准教授を令和3年6月－7月教員審査中。8月18日追記 教員審査の結果、明日徹教授と下瀬良太准教授が後任として科目を令和3年9月より担当する。「基盤ゼミⅠ」と「基盤ゼミⅡ」は令和2年1月教員審査の結果、下瀬良太准教授が担当している。 ・千田益生講師が業務上の都合により「整形外科学」を辞退したため、遠藤裕介講師に変更。 ・太田康之講師及び菱川望講師が業務上の都合により「神経内科学」を辞退したため、山下徹講師に変更。 ・山田了士講師が業務上の都合により「精神医学」を辞退したため、三宅俊明講師に変更。 ・三宅浩之講師が業務上の都合により「国際政治経済論」を辞退したため足守浩講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成３０年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等
(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要な 研究業績を有する実 務家教員数
14 名	7 名	6 名	3 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【専門職大学等】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （A）	助手 （A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （B）	助手 （B'）
9	1	3	5	18	0	4	2	3	3	12	0
(7)	(1)	(1)	(3)	(12)	0						
専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））				専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））			
5	9	4				4	5	3			
(5)	(3)	(4)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （C）	助手 （C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （D）	助手 （D'）
6	2	3	5	16	0	7	2	3	5	17	0
[Δ3]	[1]	[0]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ2]	[1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]
専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））				専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））			
4	9	3				4	9	4			
[Δ1]	[0]	[Δ1]				[Δ1]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
なお、みなし専任教員（実み）がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2)－③ 年齢構成

年 齢 構 成		
定年規定の定める定 年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のう ち、定年を延長して 採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長して 採用する教員数
60 (学長) 75 (学部長) 70 歳	1 (学長) 1 (学部長) 0 名	2 (学長) 1 (学部長) 0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{18} = \boxed{88.88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{12} = \boxed{8.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	永野 克人	R元. 12	必修	研究デザイン	①	R元. 12一身上の都合により就任辞退（２）						
				必修	理学療法概論	①							
				必修	物理療法	①							
				必修	理学療法治療学Ⅰ	①							
				必修	理学療法治療学Ⅱ	①							
				必修	総合実習Ⅰ	①							
				必修	総合研究Ⅰ	①							
				必修	総合研究Ⅱ	①							
				必修	総合演習Ⅰ	①							
				必修	卒業論文	①							
2	教授	中川 法一	R2. 4	必修	リハビリテーション概論	①	R2. 3一身上の都合により就任辞退（２）						
				必修	運動療法	①							
				必修	理学療法治療学Ⅲ	①							
				必修	総合研究Ⅰ	①							
				必修	総合研究Ⅱ	①							
				必修	卒業論文	①							
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	16	科目	必修	16	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	16	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	窪山 泉	R3. 3	必修	人間発達学	③	健康上の理由により辞任（3）			
				必修	臨床医学概論	③				
				必修	内科学	③				
				必修	小児科学	③				
				必修	卒業論文	③				
2	教授	山田 英司	R3. 3	必修	基盤ゼミⅠ	①	健康上の理由により辞任（3）			
				必修	基盤ゼミⅡ	①				
				必修	情報収集と処理	③				
				必修	研究デザイン	③				
				必修	運動学	③				
				必修	運動学実習	③				
				必修	理学療法管理学概論	③				
				必修	理学療法治療学実習Ⅰ	③				
				必修	総合研究Ⅰ	③				
				必修	総合研究Ⅱ	③				
				必修	総合演習Ⅰ	③				
				必修	卒業論文	③				
合計（F）						後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	17	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
4	人	必修	33 科目	必修	16 科目	必修	0 科目	必修	17 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	33 科目	計	16 科目	計	0 科目	計	17 科目		

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{4}{18} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2

人

(注) ・ (3)－①、(3)－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3)－⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

前期開講科目の内、1年前期「人間発達論」「臨床医学概論」及び2年前期「小児科学」は新専任教員の赴任予定の6月から開講予定のため、講義体系の上からも学生への影響は発生しない。2年前期「運動学実習」「理学療法治療学実習Ⅰ」は2人担当としてるが、2年次生の定員充足率が0.39倍のため1人担当できめ細かな指導が可能なため本年度は一時的に担当者数を減らし、後任を選任中である。後期担当科目については、辞任者の担当科目は教員審査中であるため、学生への影響は発生しない。 「学生への周知方法」 1年次・2年次の履修登録の際に履修登録表を配布の上で、さらに学生に口頭で通知を行った。新専任教員の赴任後に再度口頭にて伝達する予定である。またホームページでも周知予定である。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	我が国に専門職大学が設置された背景と趣旨および従来の大学との相違、またその中での本専門職大学の設置の趣旨、本学が目指すところ等について、最初に「大学入門」において詳細に説明した。さらには本学において、今後展開していく教育課程とその特徴について説明し学生の理解を促し、今後の教育課程の展開について理解を深めた。	本学の設置の趣旨に沿う人材育成目標を定め、それらを踏まえて、理論と実践を連動させた質の高い教育課程を編成している。本学独自に展開する「基盤ゼミプログラム」により深い人間性やコミュニケーション力等の生涯にわたる基盤的資質を養い、「専門技能錬成プログラム」により応用治療技術実習と総合実習Ⅱとを連動させ高い実践力を身につけ、「展開力育成プログラム」により産業界と連携した臨地実務実習と展開科目を連動させ豊かな創造力を涵養する。なお深い人間性を涵養するために本学独自に「学生の品格」と題する小冊子（B5判 61ページ）を作成し学生全員に配付した。さらにこの三つのプログラムを連動させた「高度職業実践教育プログラム」により、深い人間性と最新の専門知識、理論に裏付けられた高度な実践力、新しいサービスを創出する創造力を身につけ、地域社会のニーズに応え得るワンランク上の即戦力の人材を育成していく。大学及び専門職大学の目的を達成するために、「教育課程連携協議会」からの提言も踏まえて、今後学年進行に沿って教育水準を担保していくよう努める。

認可時
(令和2年)

・医療職として外国人患者に接することを踏まえ、英語など関連する教育の一層の充実に努めること。	遵守事項	「メディカル英語」は3年後期開講であるため5月1日時点では未履修である。 「コミュニケーション英語」は、新型コロナウイルス感染症への対応のため2020年4月21日より5月20日まで全学休校措置が取られたためこの間は実施されず、5月21日より対面による授業を再開した。授業では、日常的に出会う様々な課題について自然な英語表現を使ってやり取りができ、また外国人とも自然体で接することができる能力を養うために、英語教材を使い、グループワークやロールプレイを組み込んだアクティブラーニングを行い、教育内容の充実に努めた。	履行中	英語教育においては、「メディカル英語」と「コミュニケーション英語」を配置しているが、いずれの教科においても、外国人患者あるいは外国人と接する状況を想定して授業内容が構成されている。特に前者では、外国人患者への英語での対応を、基礎から臨床に至るまでの具体的事例を踏まえて細かく教授し、かつ英語での授業、グループワークやロールプレイ等の実践形式の講義形態も多く組み込むことにより、外国人患者に接する時のハードルを下げる工夫をしている。後者でも同様に、外国人留学生と交流しながら社会生活の様々な状況に英語で対処するという想定で、段階的に英語力が向上するように構成されている。また「国際政治経済論」を2年後期より開始するが、本授業でも英語教材を使用した講義を実施し、英語教育の充実を図る。なお課外授業にはなるが、ネイティブによる英会話レッスンを開き、英会話力の向上を図っている。また入学前のリメディアル教育において英語力の確認を行う。このような取り組みにより、学生の英語力の向上及び外国人患者への対応力の向上に一層努めていく予定である。
・学生が必修で履修する「メディカル英語」、「コミュニケーション英語」の科目の到達水準を踏まえ、入学試験において英語の学力を確認する仕組みを加えること。	遵守事項	総合型選抜（アドミッション・オフィス）、学校推薦型選抜（指定校制、公募制）及び一般選抜では、調査書の英語を含む評定平均値を段階的に区分し、各々の評価点を点数化して合否判定評価に加えている。一般選抜では英語学力試験を課している。一般選抜大学入学共通テスト利用方式は大学入学共通テストの成績により選考している。	履行中	年度ごと入学者選抜時の英語力と入学後の英語力の向上との関係性を検証し、入学者選抜の改善と英語力の向上に努める。

	・「客観的臨床試験（OSCE）」の実施に当たっては、その前提となる履修条件、実施内容、評価基準、不合格となった場合の取扱いについて、あらかじめシラバス等で明確にした上で履修指導を適切に実施すること。また、再試験までの日程を考慮した上でOSCEの実施時期や臨地実務実習の開始時期を適切に設定すること。	遵守事項	5月1日の時点では、臨地実務実習は見学実習が実施されたのみである。OSCEの対象となる臨地実務実習は実施されていないが、教務委員会、実習委員会、OSCE検討会議にて、総合実習Ⅰの開始に向けて、既に、履修指導、実施内容、臨地実務実習開始時期等の検討を始めており、その中でOSCEについても実施の詳細について検討を開始している。	履行中	総合実習Ⅰの開始前及び総合実習Ⅱの終了後に実施される「客観的臨床試験（OSCE）」においては、その履修条件、実施内容、評価基準、不合格となった場合の取扱いについてシラバスに記載し、それらの内容を3年次・4年次履修登録における履修ガイダンス時に説明し、学生への徹底を図る。
	・臨地実務実習における「実習実施報告会」を実施するに当たっては、個人情報などの機密保持に関する指導を適切に行うこと。	遵守事項	臨地実務実習については、1年次生の見学実習が最初であったが、本実習は2021年2月に学外実習施設において実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため学外実習が実施できない状況となったため、学外講師による学内での代替実習に切り替えた。そのため、個人情報の機密保持に関する問題は生じなかったが、本課題については、今後は、既に設置している実習委員会及び臨地実務実習指導者連絡会議により対応する予定である。	履行中	実習委員会で、学長と実習施設（医療機関等）との間で交わす個人情報保護、機密情報保護に関する委託誓約書の内容を検討するとともに学内指導における基本方針を検討する。「臨地実務実習指導者連絡会議」では、実習指導者との間で、個人情報の保護について認識を共有し、学生にその徹底を図る。
設置計画履行状況調査時 (令和2年度)	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	指摘事項 (改善)	今後展開される基盤ゼミプログラム、専門技能錬成プログラム、展開力育成プログラム及びこれらと連動した臨地実務実習を通じての本学の特徴的教育を、いろいろな機会を通じて受験生に広く周知していく。特に在校生からの発信は受験生に対して強いインパクトを与えるため、在校生が本学の教育の特徴と高い質を認識することにより、オープンキャンパスをはじめとする様々な機会を通じて、在校生から受験生に対して本学の教育内容について強いメッセージを出してもらうことにより、入学者の充足に努める。	履行中	今回の定員未充足を受け、広報委員会において原因分析を行った。その結果、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校訪問や進学ガイダンス等の広報活動が一定期間停止となったことで、本学の認知度が十分に上がらなかったこと、オープンキャンパスにおいて理学療法学科の第一希望者93名のうち約22%が県外在住者であったため、在住県内への進路変更が発生したこと、作業療法学科のオープンキャンパス参加者数が少なかったこと、作業療法に対する高校生の理解度の低さが原因であると分析した。そのため、令和4年度以降の定員充足にむけ、広報委員会と広報入試チームが一体となり、3月に広報計画を策定し、4月から活動を開始することにより、入学者の充足に努める。具体的な取組については別紙1の通りである。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を 全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 学則 健康科学部作業療法学科 卒業単位	① 計画に変更はないが、作業療法学科における卒業単位の誤植の修正をした。(2)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・FD委員会 ・SD委員会 b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ・FD委員会 開催日令和2年4月28日委員5名、オブザーバー1名出席 令和2年5月27日委員5名出席 令和2年8月 5日委員5名出席 令和2年9月23日委員5名、オブザーバー4名出席 令和2年11月4日委員5名出席 令和3年3月 3日委員5名出席 ・SD委員会 開催日 令和2年4月27日開催委員3名出席 令和2年5月27日開催委員3名出席 令和2年9月23日開催委員3名出席 令和2年11月20日開催委員3名出席 令和3年3月 2日開催委員3名出席 令和3年4月 7日開催委員3名出席 c 委員会の審議事項等 ・FD委員会…教育方法等の調査・検討・改善、研修会等の実施、FD計画立案と実施、FDに関する組織体制に関すること ・SD委員会…教育の質的向上に向けた諸施策、職員の研修等、職員の能力開発の推進に向けた諸施策の企画・立案および支援に関すること ② 実施状況 a 実施内容 ・FD研修会 ・教育に関する実践方法や研究についての勉強会 ・教員相互の授業参観 ・学生による授業評価(授業アンケート) 等	
---	--

b 実施方法

- ① FD研修（勉強会を含む）・SD研修を開催する。勉強会は毎週、全教員が集まって実施し、各教員間の教育に関する実践方法や研究紹介などを行う。
- ③ 授業参観期間を設け、教員相互の授業参観を行う。
- ④ 学長・学部長による授業参観を行い、評価・助言を行う。
- ⑤ 学生による授業評価アンケートを前期・後期の講義最終日に実施し、その結果をまとめる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年4月1日 教職員全員参加
- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年5月27日 教職員全員参加
- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年6月10日 教職員全員参加
- ・FD研修 令和2年6月17日 健康科学部教員15名参加
- ・FD研修 令和2年7月 1日 健康科学部教員15名参加
- ・FD研修 令和2年7月15日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年7月22日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年7月29日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年8月 5日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年8月19日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年9月 2日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年9月 9日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年9月16日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年10月28日 健康科学部教員10名参加
- ・FD研修 令和2年11月11日 健康科学部教員22名参加
- ・FD研修 令和2年11月18日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年12月 2日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和2年12月 9日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年12月16日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年12月23日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 1月 6日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 1月27日 健康科学部教員18名参加
- ・FD研修 令和3年 2月10日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 2月17日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 2月24日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 3月10日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 3月17日 健康科学部教員17名参加
- ・FD研修 令和3年 3月24日 健康科学部教員18名参加
- ・FD研修 令和3年 3月31日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 4月14日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 4月21日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 4月28日 健康科学部教員20名参加
- ・SD研修 令和2年 4月 3日 広報入試チーム参加
- ・SD研修 令和2年 8月20日 職員全員参加
- ・SD研修 令和2年 8月27日 職員全員参加
- ・SD研修 令和2年 9月17日 職員全員参加
- ・SD研修 令和3年 3月 2日 教職員8名参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

全専任教員が集まって勉強会を実施し、各教員間の教育に関する実践方法や研究紹介などを行い、各教員間の連携強化と情報共有が図れ、授業能力や教育効果を高めることができた。また、学生による授業評価アンケートを実施しその結果を講義担当者にフィードバックし、講義内容や構成の改善を図った。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施有。前期8月、後期11月～1月に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては、学生による授業評価アンケートの集計結果をフィードバックし、学生の評価に対する教員の改善内容を明確にした上で学長が面談を行っている。各科目の集計結果に基づき、教員は科目ごとに今後の授業改善に向けた取り組みについてコメントし、学生へフィードバックを行い、大学のホームページを通じて学生評価アンケートの集計結果と共に公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

・教育課程連携協議会

委員構成員に変更はなし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

・年2回開催(令和2年12月16日、令和3年3月16日)

c 委員会の審議事項等

・授業科目の内容、時間数、産業界及び地域社会との連携による授業科目の開発・開設、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成、授業の実施・評価、その他学修に必要な事項に対する支援

d その他

・特になし

② 審議状況

a 審議した内容

- ・産業界との連携に関する医療従事者の観点から新型コロナウイルス感染症拡大に対する教育課程に対して「見学実習」の実施の有無、実施する際の留意事項や感染症対策について審議した。
- ・産業界との連携に関する臨地実務実習「見学実習」への代替講義の内容について実施概要を説明した上でコロナ禍での今後の実施概要について審議した。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

令和2年開学のため、実績なし。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

令和2年開学のため、実績なし。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「岡山医療専門職大学自己点検・評価委員会」において、本山学園自己点検・評価委員会が定めた方針に従い、日本高等教育評価機構の評価項目に則り、大学が定める「自己点検・評価規程」に基づいて点検・評価項目、評価基準等の策定を検討中である。今後、自己点検・評価を実施し、最終的に報告書として纏める予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和3年8月1日 公表予定

b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書として大学ホームページ、刊行物および電子媒体等により学内外に公表予定（令和3年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・ 令和6年度に分野別認証評価を受けるべく、評価機関を含めて学内で検討中
- ・ 令和8年度に機関別認証評価を公益財団法人 日本高等教育評価機構で受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☒ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

目次

健康科学部

＜作業療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	39
2. 授業科目の概要	43
3. 施設・設備の整備状況、経費	49
4. 既設大学等の状況	50
5. 教員組織の状況	51
6. 附帯事項等に対する履行状況等	63
7. その他全般的事項	67

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 本山学園

(2) 大 学 名

岡山医療専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒700-0913
岡山県岡山市北区大供三丁目2-18

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ムロヤマ ヨシマサ) 室山 義正 (平成26年4月)		
学 長	(アサリ ショウジ) 浅利 正二 (令和2年4月)		
学 部 長	(クボヤマ イズミ) 窪山 泉 (令和2年4月)	(アサリ ショウジ) 浅利 正二 (令和3年4月)	健康上の理由により令和3年3月末で辞任したため、学長が兼務している。新学部長候補は教員審査中である(令和3年6月1日就任予定)。(3) 5月27日追記 教員審査の結果、6月1日に塩田雄太郎教授が就任。
学科長等	(フタキ トシコ) 二木 淑子 (令和2年4月)	(ヨシダ ナオキ) 吉田 直樹 (令和2年4月)	就任予定の二木淑子が自己都合により学科長就任を辞退したため。令和2年4月1日 (2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
- (例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
健康科学部 作業療法学科 作業療学士(専門職)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	年 4	人 40	年次 人	人 160	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	40人 — (—) [—]	— (—) [—]	40人 — (—) [—]	— (—) [—]	0.36倍	—	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	14 (—) [0]	— (—) [—]	39 (—) [0]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	14 (—) [0]	— (—) [—]	38 (—) [0]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	13 (—) [0]	— (—) [—]	23 (—) [0]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	11 (—) [0]	— (—) [—]	18 (—) [0]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B／A	—		—		—		0.28		0.45				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年 次	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	11 [0] (一)	－ [ー] (一)	18 [0] (一)	－ [ー] (一)	
2 年 次			－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	11 [0] (一)	－ [ー] (一)	
3 年 次					－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	
4 年 次							－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	－ [ー] (一)	
計			－ [ー] (ー)				－ [ー] (ー)		－ [ー] (ー)		

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) 一④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成29年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
平成30年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	0 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	11 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	29 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

平成29年度の退学者数(a)	0	=	=	#DIV/0!	%
平成29年度の在学者数(b)	0				

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康科学部 作業療法学科>

(1)－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 科 目	大学入門	1前	1			1	1		2			
	基盤ゼミⅠ	2前	1			1	1	1	2			
	基盤ゼミⅡ	3前	1			1	1	1	2			
	職業人の倫理と道徳論	1後	2								1	
	心理学	1前		2							1	
	哲学概論	1前		2							1	
	健康科学概論	1後	1			1						
	コミュニケーション英語	1前	2								1	
	日本の歴史と文化	1前	2								1	
	国際政治経済論	2後	1								1	
	基礎生物	1前	1			1						
	基礎物理	1前	1								1	
	情報収集と処理	1後	1			1						
	統計分析の基礎	2後	1			1						
	人間関係論	3前		2							1	
	コミュニケーション論	3前	1								1	
	テーマ設定と研究方法	3前	1			1						
	研究デザイン	3前	1			6	1					
小計(18科目)		－	18	6	0	6	1	1	2	0	8	
職 業 専 門 科 目	専門基礎分野	メディカル英語	3後	2			1					
		解剖学	1前	2								1
		解剖学実習Ⅰ【※】	1後	1								1
		解剖学実習Ⅱ【※】	2前	1								1
		生理学	1前	2			1					
		生理学実習【※】	1後	1			1					
		運動学	1後	2			1					
		運動学実習【※】	2前	1					1			
		人間発達学	1前	2								1
		臨床医学概論	1前	2								1
		病理学	1後	2								1
		精神医学	2後	2								1
		整形外科	2前	2								1
		内科学	1後	2								1
		神経内科学	2前	2								1
		小児科学	2前	2								1
		リハビリテーション医学	1後	1			1					
		リハビリテーション概論	1前	1			1					
	地域包括マネジメント論	3後	1								3	
	多職種連携論	1後	1				1					
	専門分野	作業療法概論	1前	2			1					
		基礎作業学	1後	1				1				
		基礎作業学実習Ⅰ【※】	2前	1						1		
		基礎作業学実習Ⅱ【※】	2後	1						1		
		作業療法セミナーⅠ	4前		1		1					
		作業療法セミナーⅡ	4後		1		1					
		作業療法管理学概論	3後	2			1					
		作業療法評価学	1後	2				1				
		作業療法評価学実習Ⅰ【※】	2前	1					1	1		
		作業療法評価学実習Ⅱ【※】	2後	1					1	1		
		作業療法評価学実習Ⅲ【※】	2後	1					1	1		
		基礎作業療法治療学	3前	1			1					
		基礎作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3前	1						2		
		基礎作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3前	1					1	1		
		身体障害作業療法学Ⅰ	2前	2				1				
		身体障害作業療法学Ⅱ	2前	2			1					
身体障害作業療法学Ⅲ		3前	1			1						
身体障害作業療法学Ⅳ		3前	1			1						
身体障害作業療法実習Ⅰ【※】	2前	1					1	1				
身体障害作業療法実習Ⅱ【※】	2後	1			1			1				

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職 業 専 門 科 目	専 門 分 野	老年期障害作業療法実習【※】	3前	1				1	1	2		1 2 2
		精神障害作業療法学	2後	1				1				
		作業療法演習Ⅰ	2後		2					1		
		作業療法演習Ⅱ	3後		2					1		
		日常生活活動学	2前	1				1				
		日常生活活動学実習【※】	2後	1					1	1		
		義肢装具学	3後		1							
		応用治療技術実習Ⅰ （徒手療法）【※】	4前	1								
		応用治療技術実習Ⅱ（リ ハビリ工学）【※】	4前	1			1					
		応用治療技術実習Ⅲ （セルフコンディショニング）【※】	4前		1							
		生活環境学	2後	2			1					
		地域作業療法学	3後	1			1					
		予防作業療法学	3後	1			1					
		見学実習【臨】	1通	1			1		1	1		
		評価実習【臨】	3前	3				1	1	1		
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	9			1			1		
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	9					1	1		
		小計(59科目)	—	89	8	0	6	1	1	2	0	
		展 開 科 目		ヒューマンサービス論	2後	2						
人間形成論	3後			2							1	
家族関係論	3前			2							1	
地域社会論	3後			2							1	
コミュニティ形成論	3後			2							1	
地域生活と健康	4前			2			1					
特別支援教育	4前			2			1					
人間工学	4前			2			1					
ライフサイクル論	4前			2							1	
岡山経営者論	4前			2							11	
小計(10科目)	—			20	0	0	3	0	0	0	0	
総 合 科 目		総合研究Ⅰ	3後	1			6	1				
		総合研究Ⅱ	4前	1			6	1				
		総合演習Ⅰ	3後		1		2		1			
		総合演習Ⅱ	4前		1		2					
		卒業論文	4後	2			6	1	1	1		
		小計(5科目)	—	4	2	0	6	1	1	1	0	
合計(92科目)			—	131	16	0	6	1	1	2	0	37
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習22単位以上 履修登録上限は、1年間に於いて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。												

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	専門分野	老年期障害作業療法実習【※】	3前	1				1	1	2			
		精神障害作業療法学	2後	1				1					
		作業療法演習Ⅰ	2後		2					1			
		作業療法演習Ⅱ	3後		2					1			
		日常生活活動学	2前	1				1					
		日常生活活動学実習【※】	2後	1					1	1			
		義肢装具学	3後		1							1	
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法）【※】	4前	1								2	
		応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学）【※】	4前	1			1						
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング）【※】	4前		1							2	
		生活環境学	2後	2			1						
		地域作業療法学	3後	1			1						
		予防作業療法学	3後	1			1						
		見学実習【臨】	1通	1			1		1	1			
		評価実習【臨】	3前	3				1	1	1			
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	9			1			1			
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	9					1	1			
		小計(59科目)		—	89	8	0	6	1	1	2	0	19
		展開科目		ヒューマンサービス論	2後	2							
人間形成論	3後			2								1	
家族関係論	3前			2								1	
地域社会論	3後			2								1	
コミュニティ形成論	3後			2								1	
地域生活と健康	4前			2			1						
特別支援教育	4前			2			1						
人間工学	4前			2			1						
ライフサイクル論	4前			2								1	
岡山経営者論	4前			2								11	
小計(10科目)				—	20	0	0	3	0	0	0	0	17
総合科目		総合研究Ⅰ	3後	1			6	1					
		総合研究Ⅱ	4前	1			6	1					
		総合演習Ⅰ	3後		1		2		1				
		総合演習Ⅱ	4前		1		2						
		卒業論文	4後	2			6	1	1	1			
		小計(5科目)		—	4	2	0	6	1	1	1	0	0
合計(92科目)			—	131	16	0	6	1	1	2	0	37	
卒業要件及び履修方法													
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習22単位以上 履修登録上限は、1年間に於いて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。													

【令和２年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 科 目	大学入門	1前	1			1	1		2			
	基盤ゼミⅠ	2前	1			1	1	1	2			
	基盤ゼミⅡ	3前	1			1	1	1	2			
	職業人の倫理と道徳論	1後	2								1	
	心理学	1前		2							1	
	哲学概論	1前		2							1	
	健康科学概論	1後	1			1						
	コミュニケーション英語	1前	2								1	
	日本の歴史と文化	1前	2								1	
	国際政治経済論	2後	1								1	
	基礎生物	1前	1			1						
	基礎物理	1前	1								1	
	情報収集と処理	1後	1			1						
	統計分析の基礎	2後	1			1						
	人間関係論	3前		2							1	
	コミュニケーション論	3前	1								1	
	テーマ設定と研究方法	3前	1			1						
	研究デザイン	3前	1			6	1					
小計(18科目)		－	18	6	0	6	1	1	2	0	8	
職業 専 門 科 目	専門基礎分野	メディカル英語	3後	2			1					
		解剖学	1前	2								1
		解剖学実習Ⅰ【※】	1後	1								1
		解剖学実習Ⅱ【※】	2前	1								1
		生理学	1前	2			1					
		生理学実習【※】	1後	1			1					
		運動学	1後	2			1					
		運動学実習【※】	2前	1					1			
		人間発達学	1前	2								1
		臨床医学概論	1前	2								1
		病理学	1後	2								1
		精神医学	2後	2								1
		整形外科科学	2前	2								1
		内科学	1後	2								1
		神経内科学	2前	2								1
		小児科学	2前	2								1
		リハビリテーション医学	1後	1			1					
		リハビリテーション概論	1前	1			1					
		地域包括マネジメント論	3後	1								3
		多職種連携論	1後	1				1				
	専門分野	作業療法概論	1前	2			1					
		基礎作業学	1後	1				1				
		基礎作業学実習Ⅰ【※】	2前	1						1		
		基礎作業学実習Ⅱ【※】	2後	1						1		
		作業療法セミナーⅠ	4前		1		1					
		作業療法セミナーⅡ	4後		1		1					
		作業療法管理学概論	3後	2			1					
		作業療法評価学	1後	2				1				
		作業療法評価学実習Ⅰ【※】	2前	1					1	1		
		作業療法評価学実習Ⅱ【※】	2後	1					1	1		
		作業療法評価学実習Ⅲ【※】	2後	1					1	1		
		基礎作業療法治療学	3前	1			1					
		基礎作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3前	1						2		
		基礎作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3前	1					1	1		
		身体障害作業療法学Ⅰ	2前	2				1				
		身体障害作業療法学Ⅱ	2前	2			1					
身体障害作業療法学Ⅲ	3前	1			1							
身体障害作業療法学Ⅳ	3前	1			1							
身体障害作業療法実習Ⅰ【※】	2前	1					1	1				
身体障害作業療法実習Ⅱ【※】	2後	1			1			1				
身体障害作業療法実習Ⅲ【※】	3前	1						2				
老年期障害作業療法学	2後	1			1							
老年期障害作業療法実習【※】	3前	1				1	1	2				
精神障害作業療法学	2後	1			1							
作業療法演習Ⅰ	2後		2					1				

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
職業 専門 科目	専門 分野	作業療法演習Ⅱ	3後		2					1		
		日常生活活動学	2前	1				1				
		日常生活活動学実習【※】	2後	1					1	1		
		義肢装具学	3後		1							1
		応用治療技術実習Ⅰ (徒手療法)【※】	4前	1								2
		応用治療技術実習Ⅱ(リ ハビリ工学)【※】	4前	1			1					
		応用治療技術実習Ⅲ (セルフコンディショニン グ)【※】	4前		1							2
		生活環境学	2後	2			1					
		地域作業療法学	3後	1			1					
		予防作業療法学	3後	1			1					
		見学実習【臨】	1通	1			1		1	1		
		評価実習【臨】	3前	3				1	1	1		
		総合実習Ⅰ【臨】	3後	9			1			1		
		総合実習Ⅱ【臨】	4前	9					1	1		
小計(59科目)		—	89	8	0	6	1	1	2	0	19	
展 開 科 目		ヒューマンサービス論	2後	2								1
		人間形成論	3後	2								1
		家族関係論	3前	2								1
		地域社会論	3後	2								1
		コミュニティ形成論	3後	2								1
		地域生活と健康	4前	2			1					
		特別支援教育	4前	2			1					
		人間工学	4前	2			1					
		ライフサイクル論	4前	2								1
		岡山経営者論	4前	2								11
小計(10科目)		—	20	0	0	3	0	0	0	0	17	
総 合 科 目		総合研究Ⅰ	3後	1			6	1				
		総合研究Ⅱ	4前	1			6	1				
		総合演習Ⅰ	3後		1		2		1			
		総合演習Ⅱ	4前		1		2					
		卒業論文	4後	2			6	1	1	1		
		小計(5科目)		—	4	2	0	6	1	1	1	0
合計(92科目)			—	131	16	0	6	1	1	2	0	37
卒業要件及び履修方法												
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習22単位以上 履修登録上限は、1年間において39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。												

- (注)
・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。
- （2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

特になし。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度 (平成30年度開設であれば平成29年度) の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
81 科目	11 科目	0 科目	92 科目	81 科目 [0]	11 科目 [0]	0 科目 [0]	92 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目（3）と廃止科目（4）の計

設置時の計画の授業科目数の計（A）

=

0

92

=

0%

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	岡山医療技術専門学校、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校、西日本調理製菓専門学校（必要面積：数値基準はなし）と共用			
	校 舎 敷 地	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²				
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	小 計	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²				
	そ の 他	0 m ²	187. 39 m ²	0 m ²	187. 39 m ²				
	合 計	1, 228. 85 m ²	4758. 15 m ²	0 m ²	5, 987 m ²				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	岡山医療技術専門学校（必要面積200㎡）、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校（必要面積499. 2㎡）、西日本調理製菓専門学校（必要面積904㎡）と共用			
		6091. 19㎡ (3282. 27㎡)	5689. 91㎡ (8498. 84㎡)	4158. 45㎡ (4158. 45㎡)	15939. 55㎡ (15939. 55㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		13室	11室	12室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		健康科学部研究室			28 室				
		教育研究室			1 室				
		健康科学部実験共同研究室			1 室				
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種 電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書(洋書141冊)は、新型コロナウイルスの影響で洋書が入手できず開設前年度に整備する予定が遅延している(2)。令和2年8月31日に納品されたため、設置計画通りの冊数となった(3)。	
	健康科学部	9, 723 [338] (9, 723 [338]) (9, 582 [197]) (9, 723 [338])	1413 [7] (1413 [7])	1408 [7] (1408 [7])	16 (16)	2, 815 (2, 815)	57 (57)		
	計	9, 723 [338] (9, 723 [338]) (9, 582 [197]) (9, 723 [338])	1413 [7] (1413 [7])	1408 [7] (1408 [7])	16 (16)	2, 815 (2, 815)	57 (57)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		484. 56㎡		100		48, 880			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1055. 21㎡		—		—			
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナルの整備費(運用コスト)を含む。図書購入費は、新型コロナウイルスの影響で洋書が入手できず開設前年度に整備する予定が遅延している(2)。
		教員 1 人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	5, 560 千円 3, 015	9, 000 千円 5, 587	3, 396千円	
		共 同 研 究 費 等	450千円	450千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1, 760千円	1, 460千円	1, 460千円	1, 460千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	岡 山 医 療 専 門 職 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所 在 地	
健康科学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
理学療法学科	4	120	0	480		0.54	0.72	-	令和2	-	
作業療法学科	4	80	0	320	理学療法学士（専門職）	0.63	0.86	-	令和2	岡山県岡山市北区大供三丁目2-18	
大学全体	4	40	0	160	作業療法学士（専門職）	0.36	0.45	-	令和2	同上	
大学全体	-	120	0	480	-	-	-	-	-	-	
大 学 の 名 称							学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数		備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所 在 地	
該当なし	年	人	年次人	人		倍	倍				

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
- （専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<健康科学部 作業療法学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勅使川原 匡 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎生物 統計分析の基礎 テーマ設定と研究方法 研究デザイン 生理学 生理学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
専	教授	安田 従生 (49) ＜令和2年4月＞ PhD in health and human performance (米国) master of science in kinesiology (カナダ) master of science in exercise science (米国) 修士（教育学） 学士（体育学）
		健康科学概論 研究デザイン メディカル英語 運動学 地域生活と健康 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
専	教授	二木 淑子 (67) ＜令和2年4月＞ 博士（医学） 修士（リハビリテーション）
		研究デザイン 作業療法概論 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 身体障害作業療法学Ⅱ 老年期障害作業療法学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勅使川原 匡 (49) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎生物 統計分析の基礎 テーマ設定と研究方法 研究デザイン 生理学 生理学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
専	教授	安田 従生 (49) ＜令和2年4月＞ PhD in health and human performance (米国) master of science in kinesiology (カナダ) master of science in exercise science (米国) 修士（教育学） 学士（体育学）
		健康科学概論 研究デザイン メディカル英語 運動学 地域生活と健康 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
専	教授	二木 淑子 (67) ＜令和2年4月＞ 博士（医学） 修士（リハビリテーション）
		研究デザイン 作業療法概論 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 身体障害作業療法学Ⅱ 老年期障害作業療法学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	勅使川原 匡 (50) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）、修士（理学）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎生物 統計分析の基礎 テーマ設定と研究方法 研究デザイン 生理学 生理学実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
専	教授	安田 従生 (50) ＜令和2年4月＞ PhD in health and human performance (米国) master of science in kinesiology (カナダ) master of science in exercise science (米国) 修士（教育学） 学士（体育学）
		健康科学概論 研究デザイン メディカル英語 運動学 地域生活と健康 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
専	教授	二木 淑子 (68) ＜令和2年4月＞ 博士（医学） 修士（リハビリテーション）
		研究デザイン 作業療法概論 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 身体障害作業療法学Ⅱ 老年期障害作業療法学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 隆司 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（保健学） 修士（保健学）
		研究デザイン 作業療法管理学概論 基礎作業療法治療学 身体障害作業療法学Ⅲ 身体障害作業療法学Ⅳ 地域作業療法学 予防作業療法学 特別支援教育 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	十河 正樹 (45) ＜令和2年4月＞ 専門学校卒
		基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習 日常生活活動学実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実専	助教	渡部 悠司 (41) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅰ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 隆司 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（保健学） 修士（保健学）
		研究デザイン 作業療法管理学概論 基礎作業療法治療学 身体障害作業療法学Ⅲ 身体障害作業療法学Ⅳ 地域作業療法学 予防作業療法学 特別支援教育 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	十河 正樹 (45) ＜令和2年4月＞ 専門学校卒
		基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習 日常生活活動学実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実専	助教	渡部 悠司 (41) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅰ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 隆司 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（保健学） 修士（保健学）
		研究デザイン 作業療法管理学概論 基礎作業療法治療学 身体障害作業療法学Ⅲ 身体障害作業療法学Ⅳ 身体障害作業療法学 予防作業療法学 特別支援教育 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業論文
実専	講師	十河 正樹 (46) ＜令和2年4月＞ 専門学校卒
		基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 運動学実習 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 老年期障害作業療法実習 日常生活活動学実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅱ 総合演習Ⅰ 卒業論文
実専	助教	渡部 悠司 (42) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 作業療法評価学実習Ⅰ 作業療法評価学実習Ⅱ 作業療法評価学実習Ⅲ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 見学実習 評価実習 総合実習Ⅰ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	野口 泰子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）、福祉経営学学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎作業学実習Ⅰ 基礎作業学実習Ⅱ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 日常生活活動学実習 総合実習Ⅱ
実(研)	教授	吉田 直樹 (55) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）、修士（工学）
		情報収集と処理 研究デザイン リハビリテーション概論 身体障害作業療法実習Ⅱ 応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学） 生活環境学 見学実習 総合実習Ⅰ 人間工学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実(研)	准教授	林 聡 (44) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 基礎作業学 作業療法評価学 身体障害作業療法学Ⅰ 老年期障害作業療法実習 精神障害作業療法学 日常生活活動学 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	伊勢 眞樹 (69) ＜令和5年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	野口 泰子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）、福祉経営学学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎作業学実習Ⅰ 基礎作業学実習Ⅱ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 日常生活活動学実習 総合実習Ⅱ
実(研)	教授	吉田 直樹 (55) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）、修士（工学）
		情報収集と処理 研究デザイン リハビリテーション概論 身体障害作業療法実習Ⅱ 応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学） 生活環境学 見学実習 総合実習Ⅰ 人間工学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実(研)	准教授	林 聡 (44) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 基礎作業学 作業療法評価学 身体障害作業療法学Ⅰ 老年期障害作業療法実習 精神障害作業療法学 日常生活活動学 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	伊勢 眞樹 (69) ＜令和5年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	野口 泰子 (44) ＜令和3年4月＞ 修士（教育）、福祉経営学学士
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 基礎作業学実習Ⅰ 基礎作業学実習Ⅱ 基礎作業療法治療学実習Ⅰ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 基礎作業療法治療学実習Ⅱ 身体障害作業療法実習Ⅰ 身体障害作業療法実習Ⅲ 老年期障害作業療法実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 日常生活活動学実習 総合実習Ⅱ
実(研)	教授	吉田 直樹 (56) ＜令和2年4月＞ 博士（工学）、修士（工学）
		情報収集と処理 研究デザイン リハビリテーション概論 身体障害作業療法実習Ⅱ 応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学） 生活環境学 見学実習 総合実習Ⅰ 人間工学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実(研)	准教授	林 聡 (45) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)
		大学入門 基盤ゼミⅠ 基盤ゼミⅡ 研究デザイン 多職種連携論 基礎作業学 作業療法評価学 身体障害作業療法学Ⅰ 老年期障害作業療法実習 精神障害作業療法学 日常生活活動学 評価実習 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文
実み	教授	伊勢 眞樹 (69) ＜令和5年4月＞ 医師、医学博士
		研究デザイン リハビリテーション医学 総合研究Ⅰ 総合研究Ⅱ 卒業論文

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅利 正二 (76) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 臨床医学概論 岡山経営者論
兼任	教授	窪山 泉 (67) ＜令和2年4月＞ 医師、博士（医）
		人間発達学 内科学 小児科学
兼任	教授	佐々木 順造 (73) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ
兼任	教授	小野 俊朗 (67) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		病理学
兼任	講師	山下 裕之 (52) ＜令和5年4月＞ 健康科学博士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	講師	横山 暁大 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）
兼任	助教	那須 宣宏 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅利 正二 (76) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 臨床医学概論 岡山経営者論
兼任	教授	窪山 泉 (67) ＜令和2年4月＞ 医師、博士（医）
		人間発達学 内科学 小児科学
兼任	教授	佐々木 順造 (73) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ
兼任	教授	小野 俊朗 (67) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		病理学
兼任	講師	山下 裕之 (52) ＜令和5年4月＞ 健康科学博士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	講師	横山 暁大 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）
兼任	助教	那須 宣宏 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	浅利 正二 (77) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		職業人の倫理と道德論 岡山経営者論
兼任	教授	佐々木 順造 (74) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		解剖学 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ
兼任	教授	小野 俊朗 (68) ＜令和2年4月＞ 医学博士、理学修士
		病理学
兼任	講師	山下 裕之 (52) ＜令和5年4月＞ 健康科学博士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	講師	横山 暁大 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）
兼任	助教	那須 宣宏 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育）、教育学士
		応用治療技術実習Ⅰ（徒手療 法）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	鈴木 啓子 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（心身健康科学） 教育学士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学
兼任	講師	千田 益生 (62) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学 リハビリテーション医学
兼任	講師	秋山 努 (68) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (65) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化
兼任	講師	山下 徹 (44) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		神経内科学
兼任	講師	高木 学 (49) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		精神医学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	鈴木 啓子 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（心身健康科学） 教育学士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学
兼任	講師	千田 益生 (62) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学 リハビリテーション医学
兼任	講師	秋山 努 (68) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (65) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化
兼任	講師	山下 徹 (44) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		神経内科学
兼任	講師	高木 学 (49) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		精神医学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	鈴木 啓子 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（心身健康科学） 教育学士
		応用治療技術実習Ⅲ（セルフ コンディショニング）
兼任	教授	千田 益生 (64) ＜令和4年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学
兼任	講師	千田 益生 (63) ＜令和2年4月＞ 医師、医学博士
		リハビリテーション医学
兼任	講師	遠藤 裕介 (47) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		整形外科学
兼任	講師	秋山 努 (69) ＜令和2年4月＞ 理学士
		基礎物理
兼任	講師	植月 眞理 (66) ＜令和2年4月＞ 英文学士
		コミュニケーション英語 日本の歴史と文化
兼任	講師	山下 徹 (44) ＜令和3年4月＞ 医師、医学博士
		神経内科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三宅 浩之 (53) ＜令和3年4月＞ 法学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三宅 浩之 (53) ＜令和3年4月＞ 法学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	三宅 俊明 (42) ＜令和3年4月＞ 医師、学士（医学）
		精神医学
兼任	講師	足守 浩 (69) ＜令和3年4月＞ 政治学修士
		国際政治経済論
兼任	講師	佐生 武彦 (64) ＜令和4年4月＞ Mater of Arts in Speech Communication (米国)
		コミュニケーション論
兼任	講師	山根 一人 (60) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	二神 雅一 (57) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	小山 敏章 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（薬科学）、薬剤師
		岡山経営者論
兼任	講師	上田 泰輔 (48) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	大塚 学 (50) ＜令和5年4月＞ 文学士
		岡山経営者論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	小林 麻衣子 (48) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		家族関係論 ライフサイクル論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士（学 校教育学）
		ヒューマンサービス論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	小林 麻衣子 (48) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		家族関係論 ライフサイクル論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士 （学校教育学）
		ヒューマンサービス論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田中 英樹 (54) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		岡山経営者論
兼任	講師	清水 努 (55) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
		岡山経営者論
兼任	講師	宮下 附一竜(武一郎) (76) ＜令和5年4月＞ 法学士
		岡山経営者論
兼任	講師	鴨井 尚志 (67) ＜令和5年4月＞ 学士（経営）
		岡山経営者論
兼任	講師	三宅 崇之 (50) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		岡山経営者論
兼任	講師	佐々木 公之 (49) ＜令和5年4月＞ Master of Business Administration (MBA)
		マネジメント論
兼任	講師	田中 菜摘 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）
		人間形成論
兼任	講師	小林 麻衣子 (48) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		家族関係論 ライフサイクル論
兼任	講師	内田 孝信 (50) ＜令和4年4月＞ 専門学校卒業
		義肢装具学
兼任	講師	池本 貞子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）、修士（学 校教育学）
		ヒューマンサービス論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 文博 (71) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論
兼任	講師	堀内 孝 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	長田 貴仁 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学）
		地域社会論 コミュニティ形成論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 文博 (71) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論
兼任	講師	堀内 孝 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	長田 貴仁 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学）
		地域社会論 コミュニティ形成論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 文博 (72) ＜令和2年4月＞ 博士（人文科学）
		哲学概論
兼任	講師	堀内 孝 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学）
		心理学
兼任	講師	兵藤 好美 (65) ＜令和4年4月＞ 学校教育学博士
		人間関係論
兼任	講師	長田 貴仁 (66) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学）
		地域社会論 コミュニティ形成論
兼任	講師	浜田 淳 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	遠藤 浩 (88) ＜令和4年4月＞ 医学博士
		地域包括マネジメント論
兼任	講師	岸川 和忠 (57) ＜令和4年4月＞ 法学士
		地域包括マネジメント論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ー②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

該当なし

【令和3年度】

- ・窪山泉教授が健康上の理由により辞任したことにより、後任を令和3年4月ー5月教員審査中。5月27日追記 教員審査の結果、塩田雄太郎教授が6月1日就任。
- ・千田益生講師が業務上の都合により「整形外科学」を辞退したため、兼任を遠藤裕介講師に変更した。
- ・高木学講師が業務上の都合により「精神医学」を辞退したため、兼任を三宅俊明講師に変更。
- ・三宅浩之講師が業務上の都合により「国際政治経済論」を辞退したため、兼任を足守浩講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等
(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要な 研究業績を有する実 務家教員数
10 名	5 名	4 名	2 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【専門職大学等】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （A）	助手 （A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （B）	助手 （B'）
6	1	1	2	10	0	4	1	1	2	8	0
(4)	(1)	(1)	(1)	(7)	(0)						
専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））				専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））			
4	4	2				3	3	2			
(3)	(2)	(2)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （C）	助手 （C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （D）	助手 （D'）
6	1	1	2	10	0	6	1	1	2	10	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））				専任教員数 （専）	専任教員数 （実専）	専任教員数 （実（研））			
4	4	2				4	4	2			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
なお、みなし専任教員（実み）がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定 年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のう ち、定年を延長して 採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長して 採用する教員数
60 (学長) 75 (学部長) 70 歳	1 (学長) 1 (学部長) 0 名	2 (学長) 1 (学部長) 0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{8} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合 計 （ F ）						後任補充状況の集計 （ G ）				
辞任した教員数		担当科目数の合計 （ a ） + （ b ） + （ c ）			①の合計数 （ a ）		②の合計数 （ b ）	③の合計数 （ c ）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）													
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）				②の合計数（b）				③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0

人

- (注) ・ (3)－①、(3)－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし									
合計						後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」

・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」

・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	我が国に専門職大学が設置された背景と趣旨および従来の大学との相違、またその中での本専門職大学の設置の趣旨、本学が目指すところ等について、最初に「大学入門」において詳細に説明した。さらには本学において、今後展開していく教育課程とその特徴について説明し学生の理解を促し、今後の教育課程の展開について理解を深めた。	本学の設置の趣旨に沿う人材育成目標を定め、それらを踏まえて、理論と実践を連動させた質の高い教育課程を編成している。本学独自に展開する「基盤ゼミプログラム」により深い人間性やコミュニケーション力等の生涯にわたる基盤的資質を養い、「専門技能錬成プログラム」により応用治療技術実習と総合実習Ⅱとを連動させ高い実践力を身につけ、「展開力育成プログラム」により産業界と連携した臨地実務実習と展開科目を連動させ豊かな創造力を涵養する。なお深い人間性を涵養するために本学独自に「学生の品格」と題する小冊子（B5判 61ページ）を作成し学生全員に配付した。さらにこの三つのプログラムを連動させた「高度職業実践教育プログラム」により、深い人間性と最新の専門知識、理論に裏付けられた高度な実践力、新しいサービスを創出する創造力を身につけ、地域社会のニーズに応え得るワンランク上の即戦力の人材を育成していく。大学及び専門職大学の目的を達成するために、「教育課程連携協議会」からの提言も踏まえて、今後学年進行に沿って教育水準を担保していくよう努める。

認可時
(令和2年)

・医療職として外国人患者に接することを踏まえ、英語など関連する教育の一層の充実に努めること。	遵守事項	「メディカル英語」は3年後期開講であるため5月1日時点では未履修である。 「コミュニケーション英語」は、新型コロナウイルス感染症への対応のため2020年4月21日より5月20日まで全学休校措置が取られたためこの間は実施されず、5月21日より対面による授業を再開した。授業では、日常的に出会う様々な課題について自然な英語表現を使ってやり取りができ、また外国人とも自然体で接することができる能力を養うために、英語教材を使い、グループワークやロールプレイを組み込んだアクティブラーニングを行い、教育内容の充実に努めた。	履行中	英語教育においては、「メディカル英語」と「コミュニケーション英語」を配置しているが、いずれの教科においても、外国人患者あるいは外国人と接する状況を想定して授業内容が構成されている。特に前者では、外国人患者への英語での対応を、基礎から臨床に至るまでの具体的事例を踏まえて細かく教授し、かつ英語での授業、グループワークやロールプレイ等の実践形式の講義形態も多く組み込むことにより、外国人患者に接する時のハードルを下げる工夫をしている。後者でも同様に、外国人留学生と交流しながら社会生活の様々な状況に英語で対処するという想定で、段階的に英語力が向上するように構成されている。また「国際政治経済論」を2年後期より開始するが、本授業でも英語教材を使用した講義を実施し、英語教育の充実を図る。なお課外授業にはなるが、ネイティブによる英会話レッスンを開き、英会話力の向上を図っている。また入学前のリメディアル教育において英語力の確認を行う。このような取り組みにより、学生の英語力の向上及び外国人患者への対応力の向上に一層努めていく予定である。
・学生が必修で履修する「メディカル英語」、「コミュニケーション英語」の科目の到達水準を踏まえ、入学試験において英語の学力を確認する仕組みを加えること。	遵守事項	総合型選抜（アドミッション・オフィス）、学校推薦型選抜（指定校制、公募制）及び一般選抜では、調査書の英語を含む評定平均値を段階的に区分し、各々の評価点を点数化して合否判定評価に加えている。一般選抜では英語学力試験を課している。一般選抜大学入学共通テスト利用方式は大学入学共通テストの成績により選考している。	履行中	年度ごと入学者選抜時の英語力と入学後の英語力の向上との関係性を検証し、入学者選抜の改善と英語力の向上に努める。

・「客観的臨床試験（OSCE）」の実施に当たっては、その前提となる履修条件、実施内容、評価基準、不合格となった場合の取扱いについて、あらかじめシラバス等で明確にした上で履修指導を適切に実施すること。また、再試験までの日程を考慮した上でOSCEの実施時期や臨地実務実習の開始時期を適切に設定すること。	遵守事項	5月1日の時点では、臨地実務実習は見学実習が実施されたのみである。OSCEの対象となる臨地実務実習は実施されていないが、教務委員会、実習委員会、OSCE検討会議にて、総合実習Ⅰの開始に向けて、既に、履修指導、実施内容、臨地実務実習開始時期等の検討を始めており、その中でOSCEについても実施の詳細について検討を開始している。	履行中	総合実習Ⅰの開始前及び総合実習Ⅱの終了後に実施される「客観的臨床試験（OSCE）」においては、その履修条件、実施内容、評価基準、不合格となった場合の取扱いについてシラバスに記載し、それらの内容を3年次・4年次履修登録における履修ガイダンス時に説明し、学生への徹底を図る。
・臨地実務実習における「実習実施報告会」を実施するに当たっては、個人情報などの機密保持に関する指導を適切に行うこと。	遵守事項	臨地実務実習については、1年次生の見学実習が最初であったが、本実習は2021年2月に学外実習施設において実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため学外実習が実施できない状況となったため、学外講師による学内での代替実習に切り替えた。そのため、個人情報の機密保持に関する問題は生じなかったが、本課題については、今後は、既に設置している実習委員会及び臨地実務実習指導者連絡会議により対応する予定である。	履行中	実習委員会で、学長と実習施設（医療機関等）との間で交わす個人情報保護、機密情報保護に関する委託誓約書の内容を検討するとともに学内指導における基本方針を検討する。「臨地実務実習指導者連絡会議」では、実習指導者との間で、個人情報の保護について認識を共有し、学生にその徹底を図る。

設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年度)	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	指摘事項 (改善)	今後展開される基盤ゼミプログラム、専門技能錬成プログラム、展開力育成プログラム及びこれらと連動した臨地実務実習を通じての本学の特徴的教育を、いろいろな機会を通じて受験生に広く周知していく。特に在校生からの発信は受験生に対して強いインパクトを与えるため、在校生が本学の教育の特徴と高い質を認識することにより、オープンキャンパスをはじめとする様々な機会を通じて、在校生から受験生に対して本学の教育内容について強いメッセージを出してもらうことにより、入学者の充足に努める。	履行中	今回の定員未充足を受け、広報委員会において原因分析を行った。 その結果、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校訪問や進学ガイダンス等の広報活動が一定期間停止となったことで、本学の認知度が十分に上がらなかったこと、オープンキャンパスにおいて理学療法学科の第一希望者93名のうち約22%が県外在住者であったため、在住県内への進路変更が発生したこと、作業療法学科のオープンキャンパス参加者数が少なかったこと、作業療法に対する高校生の理解度の低さが原因であると分析した。 そのため、令和4年度以降の定員充足にむけ、広報委員会と広報入試チームが一丸となり、3月に広報計画を策定し、4月から活動を開始することにより、入学者の充足に努める。 具体的な取組については別紙1の通りである。
----------------------------------	--------------------------------	--------------	---	-----	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康科学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 学則 健康科学部作業療法学科 卒業単位	① 計画に変更はないが、作業療法学科における卒業単位の誤植の修正をした。(2)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・FD委員会 ・SD委員会 b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) ・FD委員会 開催日令和2年4月28日委員5名、オブザーバー1名出席 令和2年5月27日委員5名出席 令和2年8月 5日委員5名出席 令和2年9月23日委員5名、オブザーバー4名出席 令和2年11月4日委員5名出席 令和3年3月 3日委員5名出席 ・SD委員会 開催日 令和2年4月27日開催委員3名出席 令和2年5月27日開催委員3名出席 令和2年9月23日開催委員3名出席 令和2年11月20日開催委員3名出席 令和3年3月 2日開催委員3名出席 令和3年4月 7日開催委員3名出席 c 委員会の審議事項等 ・FD委員会…教育方法等の調査・検討・改善、研修会等の実施、FD計画立案と実施、FDに関する組織体制に関すること ・SD委員会…教育の質的向上に向けた諸施策、職員の研修等、職員の能力開発の推進に向けた諸施策の企画・立案および支援に関すること	
② 実施状況 a 実施内容 ・FD研修会 ・教育に関する実践方法や研究についての勉強会 ・教員相互の授業参観 ・学生による授業評価(授業アンケート) 等	

b 実施方法

- ① FD研修（勉強会を含む）・SD研修を開催する。勉強会は毎週、全教員が集まって実施し、各教員間の教育に関する実践方法や研究紹介などを行う。
- ③ 授業参観期間を設け、教員相互の授業参観を行う。
- ④ 学長・学部長による授業参観を行い、評価・助言を行う。
- ⑤ 学生による授業評価アンケートを前期・後期の講義最終日に実施し、その結果をまとめる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年4月1日 教職員全員参加
- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年5月27日 教職員全員参加
- ・FD研修・SD研修（共同開催） 令和2年6月10日 教職員全員参加
- ・FD研修 令和2年6月17日 健康科学部教員15名参加
- ・FD研修 令和2年7月 1日 健康科学部教員15名参加
- ・FD研修 令和2年7月15日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年7月22日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年7月29日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年8月 5日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年8月19日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年9月 2日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年9月 9日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年9月16日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年10月28日 健康科学部教員10名参加
- ・FD研修 令和2年11月11日 健康科学部教員22名参加
- ・FD研修 令和2年11月18日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年12月 2日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和2年12月 9日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和2年12月16日 健康科学部教員20名参加
- ・FD研修 令和2年12月23日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 1月 6日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 1月27日 健康科学部教員18名参加
- ・FD研修 令和3年 2月10日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 2月17日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 2月24日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 3月10日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 3月17日 健康科学部教員17名参加
- ・FD研修 令和3年 3月24日 健康科学部教員18名参加
- ・FD研修 令和3年 3月31日 健康科学部教員16名参加
- ・FD研修 令和3年 4月14日 健康科学部教員19名参加
- ・FD研修 令和3年 4月21日 健康科学部教員21名参加
- ・FD研修 令和3年 4月28日 健康科学部教員20名参加
- ・SD研修 令和2年 4月 3日 広報入試チーム参加
- ・SD研修 令和2年 8月20日 職員全員参加
- ・SD研修 令和2年 8月27日 職員全員参加
- ・SD研修 令和2年 9月17日 職員全員参加
- ・SD研修 令和3年 3月 2日 教職員8名参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員に対しては、学生による授業評価アンケートの集計結果をフィードバックし、学生の評価に対する教員の改善内容を明確にした上で学長が面談を行っている。各科目の集計結果に基づき、教員は科目ごとに今後の授業改善に向けた取り組みについてコメントし、学生へフィードバックを行い、大学のホームページを通じて学生評価アンケートの集計結果と共に公開している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施有。前期8月、後期11月～1月に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては、学生による授業評価アンケートの集計結果をフィードバックしている。各科目の集計結果に基づき、教員は科目ごとに今後の授業改善に向けた取り組みについてコメントし、学生へフィードバックを行い、大学のホームページを通じて学生評価アンケートの集計結果と共に公開している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

・教育課程連携協議会

委員構成員に変更はなし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

・年2回開催(令和2年12月16日、令和3年3月16日)

c 委員会の審議事項等

・授業科目の内容、時間数、産業界及び地域社会との連携による授業科目の開発・開設、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成、授業の実施・評価、その他学修に必要な事項に対する支援

d その他

・特になし

② 審議状況

a 審議した内容

・産業界との連携に関する医療従事者の観点から新型コロナウイルス感染症拡大に対する教育課程に対して「見学実習」の実施の有無、実施する際の留意事項や感染症対策について審議した。

・産業界との連携に関する臨地実務実習「見学実習」への代替講義の内容について実施概要を説明した上でコロナ禍での今後の実施概要について審議した。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

令和2年開学のため、実績なし。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

令和2年開学のため、実績なし。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「岡山医療専門職大学自己点検・評価委員会」において、本山学園自己点検・評価委員会が定めた方針に従い、日本高等教育評価機構の評価項目に則り、大学が定める「自己点検・評価規程」に基づいて点検・評価項目、評価基準等の策定を検討中である。今後、自己点検・評価を実施し、最終的に報告書として纏める予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和3年8月1日 公表予定

b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書として大学ホームページ、刊行物および電子媒体等により学内外に公表予定（令和3年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・ 令和6年度に分野別認証評価を受けるべく、評価機関を含めて学内で検討中
- ・ 令和8年度に機関別認証評価を公益財団法人 日本高等教育評価機構で受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☒ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。